

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



大型連休をはさんで、潮騒農業はジャガイモの収穫、青パイナップル苗の定植、潮騒水田での田植えとトリプルで超多忙の時期を迎えています。我が農業隊のメンバーは連日、フル稼働で農作業に励んでいます。このうち青塚農場では、わせ品種のジャガイモ収穫が本格化し出荷作業に追われています。

2015

5

世間はマーシー(田代まさし)を 誤解している



各地のダルクフォーラムで、巧みな“話芸”を織り交ぜたマーシーのメッセージに接する機会を目にします。マーシー(本名、田代政さん)は元お笑いタレントで、往年のファンには顔を黒塗りにしたドワーフアップグループ、シャネルズ(後にラッツ&スター)メンバーの記憶の方が鮮明かもしれません。歌手、俳優、司会者、Vシネマ監督などマルチな才能を持つ人です。しかし、私と同じく覚醒剤に依存して2度の刑務所暮らしを経験。結果、家族や友人、仕事、信用、芸能界での地位と名声など全てを失いました。「底つき」してダルクにつながり、今は日本ダルクに通所しています。毎日、電車通勤して電話番号などスタッフとしての雑務をこなしながら依存症のリハビリに励み、週末には代表の近藤恒夫さんと一緒に全国各地にメッセージを運んでいます。

その彼が新刊のコミックエッセイを出版しました(泰文堂刊「マーシーの薬物リハビリ日記」=1200円+税)。決しておふざけ本ではありません。極めて真面目な彼の回復ストーリーです。一連の蹟きの経緯や真相、現在のリハビリ生活がマンガという親しみやすい手法で分かり易く描かれています。一読すれば、マーシーがとても生真面目かつ繊細な神経の持ち主で、メディア(芸能界)という虚構の世界で生き抜くことがいかに大変だったかがよく分かります。苦しい修行や下積みを経て芸を磨くならともかく、テレビの世界は「素人芸」が重宝がられ、消費財のように使い捨てにされます。「ダジャレの帝王」の異名を取った彼が、常に“干される”という不安と隣合わせの生活だったことが覚醒剤に依存した主因のようですが、今では回復プログラムに励むことで“ありのままの自分”を肯定できる地平に立っています。

私は当初、近藤さんが出所間もないマーシーをメッセージに立たせることに違和感を持ちました。まず施設で腰を据え、じっくり回復プログラムに専念させるべきではないか、と。でも、近藤さんは自分の伴走者だった故ロイ神父と同じ関係を、今度はマーシーと自分に置き換えて実践しているようです。ダルクも潮騒JTCもそうですが、メディアとの距離の置き方は難しいものがあります。言えることは、マーシーは無名のアディクトの一人であり、それ以上でも以下でもなく、ましてやダルクの広告塔などではない、ということです。ごまめの歯ざしりかもしれませんが、依存症者には「仏の顔も三度」という世間の手強い常識は通じません。むしろ「罪を憎んで人を憎まず」の懐の広い教えに従い、何度でも失敗(治療的なスリップ)と回復のチャンスを認めることしかありません。マーシーも明日はどうか分かりません。この本を読むと、彼がいかに世間に誤解されているかがよく分かります。ダルクでの生活のように社会においても自然体で、本音で生きられるようになり、そしていつの日にか彼が心に秘める芸能人向けのダルクをつくってほしいものです。

(センター長 栗原豊)



「苦しみの中には喜びがある！」を実感 達成感を得た 2泊3日の和太鼓合宿練習

GW明けの週末(5月8~10日)に行方市の公共宿泊施設レイクエコーで、潮騒太鼓隊の2泊3日合宿練習がありました。先生は、毎回お世話になっている鹿島灘太鼓主宰者で、和太鼓演奏では凄腕の島田正之・京子さんご夫妻でした。

初日は午後1時から7時までみっちり練習をしました。40分ぐらい集中的に練習しては5~10分の休憩を入れるインターバルトレーニングでしたので、始まる前は「えっ、40分間も続けるの? 自分には絶対に無理無理…」との弱音が。でも、「せっかく3日間も太鼓の練習に励むことができるんだし、やらなきゃ損!」島田先生や灘太鼓の仲間たちも来てくれて、目の前で手本を示してくれるのだから、このチャンスを生かさない手はない」と気持ちが切り替わり、「よーし、やってやるぞ!」の前向きな姿勢に変わりました。

島田先生も「見本の演奏を見て体に覚えさせるように」と貴重なアドバイスをしてくれたので、前からだけでなく横や後ろからも灘の仲間たちの手本の動きに目を凝らしました。とにかく2泊3日の合宿は基礎練習に始まり基礎練習で終わった感じです。太鼓を並べて、ぐるぐる回る

という太鼓の打ち方、力の入れ方、間のとり方、これらはすべて基礎練習の中にありました。さらに足の使い方、肩の入れ方、腕の使い方、肘の使い方、お尻の位置、それがエンドレスで続いたのです。いつもは強気の自分も、「あ〜っもう無理、体力の限界…」と音を上げそうになりましたが、仲間の励ましもあって何とか合宿スケジュールを最後までやり遂げることができました。

最終日の3日目には会場の野外調理施設でBBQが催され、焼き肉、野菜炒め、焼きそばを潮騒の仲間、灘太鼓の仲間たちと一緒に作って食べました。正直、太鼓の練習はとても辛かったけど、仲間が料理を落としたりして「あーあ、やっちゃった」と笑いながら、BBQはめちゃくちゃ楽しかったです。さらに、その夜はサプライズが待っていました。みんなでカラオケボックスに繰り出し、歌って踊ってイェーイ!。最後には島田先生から熱いメッセージを頂き、「大きな体をよく動かしたで賞」まで頂きました。賞の袋を開けると、中にはコンパースのマフラータオルが。苦しみの後には喜びがあるって、本当ですね。自信と達成感を得た2泊3日の和太鼓合宿練習でした。イェーイ、終わり。(ナカ)



就労支援

今年も

潮騒農業

本格始動

■今年もサツマイモ栽培と干しイモ作りに力点

3年間に及んだ潮騒ファイザープロジェクトの成果と恩恵を下地に、今年も潮騒農業が本格的に動き出しました。農場では2月頃から段階的に土壌改良などの下準備を進めてきましたが、GW(大型連休)期間を前後して、畑作ではジャガイモの収穫やサツマイモの定植、昨年大豊作だった青パパイヤ苗の定植作業があり、潮騒水田では前年よりも作付面積を倍増させ、大規模農家並みの取り組みとなる米作りの田植え作業が、潮騒農業を支える農業自然隊メンバー総出で行われました。さらに神栖市にある女性施設でも今年も農場を確保し、福祉事業(就労継続支援B型)の枠内ですが、前号で既報したようにジャガイモ栽培に乗り出しています。

このように潮騒農業は、将来ビジョンとしては自立農業を目指しながら、段階的に就労支援のハード面での「受け皿」となる農地を、この3年間で急激に増やしてきました。そのために今年も更なる投資をして、一通り自前で農業ができるように各種の農業機械を揃えました。これらをフル稼働させるためにも、人材育成が大事になります。今年も新たな農業隊メンバーや農業班への参加者を増やしていく計画です。また、これまで潮騒農業は、地元のベテラン支援農家の助言や指導を受け、農業隊メンバーが現場で試行錯誤しながらやってきましたが、

より本格的な農業技術やノウハウを身につけようとリーダーのヒトシ、ナカ、ユウさんの3人が茨城県立農業大学校(東茨城郡茨城町)が5月下旬に開講した営農塾に参加して農業の基礎を学んでいます。とするとプロ農家出身のヒコさんにおんぶしがちな態勢を、少しずつ改めていこうと考えています。

また、これまでのように助成金頼りの農業環境ではなくなったので、生産・流通・販売までを視野に入れた6次産業化の流れを意識した取り組みにも力を入れます。戦略作物として今年も前年規模で野菜としての青パパイヤ栽培に挑みますが、前年の反省から今年も収穫できたものを確実に販売する流れを形成します。販売提携している銚田市のクリニック関連施設に加え、イベントや道の駅などでの街頭販売やタイ料理店へもアタックしていく計画です。サツマイモは栽培面積を大幅に増やしました。できるだけ質の良いものを生産し、JAに出荷すると同時に、保管技術を身につけて付加価値のある加工品として人気の干しイモ作りに力を入れます。昨年の段階で十分な商品価値を確認できたので潮騒ブランドとして販売に力を入れます。また、各種野菜は自前の直売所で新鮮朝採れ野菜として販売し、隣の潮騒食堂(おらげのかまど)の食材として提供し、健康にいいメニュー作りに役立ててもらおう予定です。(み)



▲ 荒れた田んぼの耕作を請け負い、あぜづくりに汗を流す農業隊メンバー



▲ 今年も地蔵の専用農場に栽培の難しい青パパイヤ 100 本を定植した



▲ 田植え機で植えた苗の間を、手植えで修正していくのも大事な作業だ



▲ 今年も水田耕作はリーダーのヒコさんの独壇場に。見よ、この勇姿!

米作り

今年はず農業機械(乗用田植え機、トラクター、コンバイン、乾燥機等)が増え、作業効率が上がったこと、そして耕作受託した水田が増えたこと、夜間の各宿泊施設(ナイト)が整備され、潮騒食堂「おらげのかまど」が開店したことで自家消費分と食堂に提供する分などで消費量が一気に増えました。このため、水田耕作リーダーのヒコさんだけでは管理が難しくなり、自分やユウちゃん、ナカちゃん、若い要となるメンバーがより主体的に農作業を担う状況が生まれました。メンバーが分担して、代掻き、耕運、元肥、薬剤散布など一連の作業についてヒコさんから現場で具体的な指導を受けています。根っからの農業者で寡黙な性格のヒコさんですが、これまでの「教えるを乞うより技術を盗め!」という職人的な指導のスタイルに変化が見られてきたように思います。

農繁期を迎え、農業の基本をヒコさんから教えてもらいながら、4年目にして初めて本格的に自分たちの手で田んぼの整地や田植えを行っており、世代交代も感じられる今年の水田農業です。耕作面積を前年よりも倍増させましたが、分散しているので作業効率が悪く、1カ所は長く耕作放棄地となっていたので苦勞も多いです。でも、とにかく与えられた条件で頑張るしかないのが潮騒農業です。

畑作

畑作面では、昨年にも増して潮騒農場の有効活用を図ります。年間を通してベテランのジュンさんらを中心にして多品種の野菜作りに力を入れ、露地栽培北限地の青パパイヤ栽培にも力を入れます。前年と同じ規模の約100本を定植したのですが、気候のせいなのか生育状況がよくありません。改めて青パパイヤ栽培の難しさを感じています。ジャガイモはまずまずの出来でした。今後はじゃがバターにして、イベント等で売り出すことも考えています。

また今年、需要が多く付加価値の高いサツマイモの加工品、干しイモ作りに重心を置きます。計5カ所(面積約80アール)に紅はるか9000本、シルクスイート1800本を定植させました。半分はJAしおさい鹿嶋に出荷し、残りを干しイモにします。現在、女性施設(神栖市)の敷地内に作業所を整備で、ここを干しイモ加工場として袋詰めまで、一連の作業を行えるようにする計画です。5月中旬はジャガイモの収穫期とサツマイモ&青パパイヤ定植が重なり、さらに潮騒水田での田植えが加わるという超多忙化の農繁期でした。こうした苦勞も秋の収穫期には報われ、喜びに変わります。まだまだ分からないことだらけですが、自然の持つ偉大な力と恵みを実感しながら、謙虚に今年も潮騒農業に励みます。

(以上、ヒトシでした)



バーベキュー大会 仲間 90 人が焼き肉や野菜、焼きそばに舌鼓

潮騒 JTC では今年もゴールデンウィーク (GW) の自主イベントとして 5 月 4 日、宮津台の下津ナイトケア施設 (NPO 法人本部) の駐車場で恒例のバーベキュー大会を開きました。前年の GW では横浜ダルクとの交流会がありました。今年も潮騒独自の取り組みとなりました。大型連休のこの時期は各地の行楽地が混み合い、交通渋滞が発生することから大所帯の潮騒では車の遠出が難しく、仲間たちは地元での自主イベントを楽しみました。なお、バーベキュー大会は入寮者が最も楽しみにしている取り組みで年に数回実施されています。いずれも準備作業が大変なだけにスタッフの下支えと尽力が光りました。

このうちバーベキュー大会は、この日の昼食時間に合わせて実施され、入寮者仲間約 90 人が参加しました。大量の肉と野菜が用意され、スタッフや担当者らが手慣れた様子で次々に鉄板でジュージューと美味しく焼き上げていました。若い世代から 70 代の高齢者まで潮騒の仲間たちは食欲もりもりで、肉が焼き上がるや群がるように紙皿いっぱい盛り付けては一気にほお張り、舌鼓を打っていました。祭りイベントなどで評価の高い「潮騒焼きそば」も人気を呼んでいました。改めて食欲旺盛な仲間たちの様子が感じられ、施設生活では「食べること」が大事な要素かを浮き彫りにしていました。

● マツの感想文

楽しみにしていたバーベキューの日、自分は肉を焼く役割を引き受け、一生懸命にその任務をこなしました。入寮者が凄い勢いで食べるので焼くのが間に合わないほど大変だったけど、みんなが食べる光景に充実感を覚え、とても楽しかったです。いつの間にか、みんなが自然に顔をほころばせ幸せそうな表情を見せてくれたので、とてもよかったです。みんなにサービスを提供する事が自分の回復にもつながるんだなあ、と改めて思い知りました。今後もイベントなどで私の焼きそばの腕前を披露していきます。(マツ)

● マジエの感想文

私が茨城の片田舎、鹿嶋市の潮騒に来て初めての GW でした。GW の関連イベントとして下津寮の駐車場で仲間の中で超人気の BBQ 大会をやるのはみんなから聞いていましたが、まさか当日に焼きそばの担当を任されるとは予想外の事態でした。久しぶりなのでうまくできるか心配でしたが、いざ作ってみんなに提供すると笑顔で食べてくれました。ワイワイ言いながら、とてもおいしいと褒めてくれました。貴重な体験でしたが、私としては鉄板の熱気で蒸し焼き状態みたいな感じとなり、最高に最悪でした?!。(マジエ)





潮騒ボウリング大会

潮騒のボウリング大会は5月5日、鹿嶋市宮中のショッピングセンターチェリオ2Fにある鹿島ボウルで開かれました。ボウリングは地味ながらも気軽にできるスポーツで、成績や腕前はともかく入寮者にはストレスの発散につながるとして幅広い人気です。ボウリング大会は年末のクリスマス会の関連イベントとしても開かれています。今回は約60人が参加し、3~4人ずつ合計17グループに分かれて熱戦が繰り広げられました。以下は、このイベントを担当したスタッフと参加した入寮者3人の感想です。

●グループ編成に悩み抜くも無事にやりきった

今年もGW恒例の潮騒ボウリング大会がありました。私は今回初めて、まとめ役を引き受けました。前準備が慌ただしく始まり、とりわけメンバー表の作成に苦労しました。メンバー表作りは3回目ですが、今回は一番苦

労しました。というのも、今回は意外に初めて参加するメンバーが多く、反対にいつも高スコアを出している農業隊メンバーが田植え準備などで忙しく不参加となったことから頼れるデータがなかったからです。いかに力が均等なるようにグループを編成すべきか、大いに悩み抜きました。うまくいかず予測がつかない不安と焦りがありました。いざ始まると案ずるよりも産むが易しで、何とか無事に乗り切りました。むしろ結果は、かなりよくできた方だと思います。そこには仲間の力があり、みんなの協力がなければ不可能でした。

大会自体は今までとはちょっと違った雰囲気がありました。笑いあり、涙あり、意外な仲間のダブル・ターキーとガーターの連発、勢い余ってレーンに倒れ込む仲間もいて、楽しい2時間があっという間に過ぎました。すべて結果よしとは思いませんが、まとめ役引き受けて仲間たちに楽しんでもらえたことがより嬉しく、達成感をえました。反省点もありますが、それは失敗ではなく次につなげる課題として受け止めています。依存症の回復にとっては大事な原則ともいえる「決して無理せず適当なところで…」というのが、私の信念です。今回の経験を生かし、次回はもっともっと潮騒らしさ、独特色を出したボウリング大会にしたいと考えています。

PS：みんなの腕が上がっていることに驚きました。それに新しい仲間のスコアにも感激です。(ツカ)

●3度目の大会でグループ3位・個人でも3位

今回3度目のボウリング大会で、グループ3位、個人でも3位となり、自分でも「えっ」と言うような感じです。今まではクリスマスの時にボウリング大会がありました。その時はまだ潮騒に来て1カ月ほどでしたが3位でした。それが1年後にはなんと1位でした。そして、その時に組んだのが今回、個人で1位、グループでも1位のリョフ君です。やっぱり彼はうまいですね。今度は玉が曲がるように練習したいです。今は仕事を第一に回復を目指して頑張っています。次回のボウリング大会も頑張るゾ！（トン）

●真っ直ぐに投げているつもりが何故かガーターに

GW関連イベントとして開かれた潮騒のボウリング大会に参加しました。ボールを真っ直ぐに投げているつもりが、なぜかガーターにいつてしまいました。次のボウリング大会ではストライクを目指したいです。もちろん日々プログラムに励み、ミーティングに足を運んで依存症の回復に向けて頑張っていきます。(グッチ)

10周年記念フォーラムのテーマ「ターニングポイント～更なる10年へ」

潮騒ジョブトレーニングセンターは今年11月15日(日)に、昨年と同じ鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中)で10周年記念フォーラムを開きます。このほど開いたプロジェクト会議で、節目となる同フォーラムのテーマを「ターニングポイント～更なる10年へ」に決めました。

フォーラムは10周年を祝う多彩な企画やパフォーマンスで構成するために、午前10時から午後4時半の長丁場の開催となります。午前の部は主に入寮者や支援者らの発言で潮騒10年の歩みを振り返り、農業隊、作業隊、女性ハウス代表らによるパネル討論を通して潮騒の今後を展望する計画です。午後は太鼓(エイサー&鹿島灘太鼓)と日本ダルク代表の近藤恒夫さんの記念講演、各地のダルクフォーラムなどで人気の我ががマーシー(田代まさしさん)のメッセージなどみんなで楽しめる内容で構成する計画です。

読者の中には「あれ、潮騒の活動はまだ10年たっていないのではないか?」と疑問に思われる方も多いと思います。確かに潮騒JTCとしての活動は2008年からですが、私たちは栗原センター長が困難な状況の下で鹿島ダルクから離れて独立し、志を同じくする仲間と任意の自主活動を始めた2005年暮れを潮騒の原点と考えています。孤立無援の中で依存症の回復を信じ、困難な歩みを続けた前史の活動を無視できないものとし、今年を独立10周年として位置付けました。

栗原センター長が施設を独立させた際のボタンの掛け違いなどが尾を引き、いまだダルク内では潮騒に対する誤解と偏見が感じられる場面があります。また施設の名称を「ダルク」から「ジョブトレーニングセンター」に替えたことなどから、ともすると潮騒はダルクの傍流に位置すると見られがちです。しかし、そうした外側からの“見られ方”よりも、今自分たちがどんな活動をしているかをフォーラムで明らかにできたら、と考えています。

おらげのかまどに 人気メニューの「ぶた井」登場!

昨年11月にオープンした潮騒食堂「おらげのかまど」に人気メニューが加わりました。店長のハルさんの味付けが光る「ぶた井」です。味噌汁が付いて500円とリーズナブルな価格で、かまど利用者のなかでも現場で働く農業隊や作業隊メンバーには特に支持されています。

今春ダルクフォーラムで北海道を訪れた際に、栗原センター長が地元のぶた井を食べたところ、これが絶妙な味でわざわざタレをみやげに持参しました。さっそくハルさんに「かまどは魚料理が多いので、肉料理のぶた井を加えたら」と提案。これを受けハルさんがタレを分析。長い調理師経験を持つ人だけに、醤油、昆布、砂糖、みりん、シイタケのだし汁など成分を解明し、これに潮騒独自の味付けを施し、5、6回試作を経て商品化しました。肉は皮つきのバラ肉を使い下処理に手間を掛けている逸品です。

「そんなに数は出ていないが、食べやすくて美味しい、タレがいい、との評判を頂いています」と店長のハルさん。これから夏に向かっては潮騒農場と提携してナスやキュウリなど夏野菜を中心にしたヘルシーメニューを用意するそうです。

「ウクレレミーティング」に 癒される

5月半ばのとある夕方。デイケアにいた仲間に、栗原センター長から電話がありました。「今すぐ“かまど”に来い!」と。間もなくセンター長がデイケアに現れ、「今からウクレレミーティングだ!」と叫んで、すぐにいなくなっていました。みんな「ウクレレミーティング? 何それ?」と、あつけにとられた感じでした。

「何でもミーティングになってしまうんだなあ」と独り言をつぶやきながら、私も急ぎ市役所前の潮騒食堂「おらげのかまど」に仲間と一緒に車を飛ばしました。既に店内ではウクレレを手に持ち、アロハとオリーブの首飾りを身につけた男前の歌い手が素敵な歌声を披露していました。心なしか潮騒の女性陣がうっとりしていたような気がします。なるほどフラダンスが静かなブームなのもうなずけます。

そのうちに仲間たちがぞくぞく集まり、店内は満員となりました。小1時間の宴でしたが、忙しい日常から少しだけ切り離され、素敵な癒やしの空間となりました。食事処の「おらげのかまど」ですが、新たな有効利用のヒントにもつながりそうです。こんな素敵な癒しの時間を与えてくれた神に感謝です。

受刑者からの手紙

シュンさんの励ましの手紙に頷いている

皆様いかがお過ごしですか。私の方は元気しておりますが、毎日、後悔と反省の日々です。センター長の意向を受け代筆されているシュンさんより、お手紙と服が届きました。ありがとうございます。シュンさんの文面には、ただうなずくばかりです。覚醒剤を取り巻く問題の何ひとつ解決できず、服役だけを繰り返し、多くの人を傷つけてきた私達は、社会で生きていけなくなった、どうしようもない人間だという事を素直に認めることが大切なのだ、という事が良く分かりました。

罪悪感のすり減った私達はクスリを止めようとしても、それどころか依存症は進み深まるばかりで、そんな意志では何度も服役を繰り返すばかりの事で、ご多分に漏れず私も6度の服役になります。なので、覚醒剤を使い続けた今までの生き方からクスリを使わない新しい生き方をするには、すり減った罪悪感や現状の壊れた意志などを新しいものに変える必要がある事も十分に分かります。(薬物に対して)無力を認める事で、自分の欠点を受け入れる事も必要だということ、それは無力であることを知り、全てを受け入れる事で(生きる事に)謙虚になれるものだ、という事もお手紙を読み、“まさしくそうだな”と考えさせられます。また、謙虚であれば多くの“捉われ”から解放されるし、本来の自分をさらけ出せるものと思います。

シュンさんの文中に「自分の過去は、ひとりでは何ひとつできなかつた“ヤク中”なんだと認めることで、あらゆる問題を受け入れる事が出来る様になった」とありましたが、私も現在の状況、現在の気持ち、考え方を忘れず、自分が謙虚であり続けるように努力し、継続していきたいと思います。今までは虚勢を張り“クスリなんて何時だって止められるよ”と周りの者に強気な発言をしていましたが、私たち依存症者は覚醒剤の欲求に勝てないということ、また無力であるということ、弱い人間であることを受け入れることが大切なのです。

私もクスリの為にどれだけの犠牲を払ってきたか! お金、家族、友人、知人への信頼や仕事、周りの者への信用などは、(更生してきちんと)社会生活を続けていけば、いずれ取り戻せかもしれませんが、この精神面だけはもうボロボロです。本当に大きなものを失いました。不眠症、不安感、猜疑心、対人恐怖症、イライラ等です。それでも社会に戻ればクスリをやり続けていました。もちろん他人を裏切っても、です。今までの人生を振り返っても仕方がないことで、シュンさんの言われるように、自分に謙虚であり、クスリの前では無力であり、弱い人間だということを認め、目の前にある全ての問題を受け入れる日々を送りたいと思います。

これから2年10カ月ほどの懲役になりますが、周りに流されず、自分というものをしっかりとち、以前センター長より頂いた手紙の文中にありました「規律違反等を起こさず生活することも自己改善につながる」を頭に入れ、心掛けたいと思います。一度はセンター長を裏切った私ですが、こうして手紙を書いて頂いたり、服を送って頂いたり、本当に感謝しております。今度こそセンターに入寮し、同じ悩みを持った人達と語り、自分をさらけ出し、謙虚に日々を送りたいと思っています。その際には何とぞ宜しくお願いします。先に記したように、私には猜疑心や対人恐怖症といった精神的な不安がありますので、その点何とぞ頼みます。ただ、クスリだけは二度とやらないという気持ちだけは持っていますので。

センターに入寮しても、色々な人達がいると思いますし、集団生活ですから様々なルールがあると思います。一日でも早く慣れ、自分の居場所というものを見つけ、センターでの生活を有意義なものにしたいと思っています。積極的に色々な行事に参加し、薬物依存症からの回復を目指します。3年後にはセンターで生活出来ることを楽しみにしております。クスリもなく酒もない生活ですが、何ものにも代えがたい自由があります。二度と塀の中に戻る事のないようにしたいものです。私の場合、クスリにさえ手を出さなければ刑務所に来ることはないのですから…。

(東京都 U・Y)

※注一ダルクや潮騒での回復率は良くて3割程度とされ、さらに自立・就労するケースは少ない。回復の問題は難しいが、途中退寮しても再度つながり、段階的な回復を可能にする施設の在り方は特筆される。世間では受け入れにくいとしても、何度でも失敗を認める度量がなければ依存症の回復はない。

受刑者に限らず、最近は長い依存症歴による様々な後遺症を抱えて入寮するケースが増えています。厄介なのは高齢に加え、重い精神症状を併発する人です。もはや潮騒にしか居場所を見いだせないとしても、ミーティングに取り組みない入寮者にどうしたら回復の希望を与えられるか…。一つの光明は潮騒が力を入れる農作業に可能性が見えてきたことです。

一日も早く社会復帰して土をいじりたい

栗原センター長に手紙を出した後に官の方から身元引受人の許可が出たと云われました。これからどの様な流れになっていくのか分かりませんが、また色々ご指導を願います。分からない事だらけですので潮騒さんの云う事を守って、一日も早く社会復帰が出来ます様に努力する積りです。とりあえず感謝の気持ちを短いです、伝えさせて頂きます。シュンさん、色々教えてください。

茨城の方はもう初夏の気候と思いますが、畑を耕すのは気持ちが良いでしょうね。私も早く土をいじりたいです。もう二度と薬には手を出さない気持ちで生活しています。(北海道 Y・M)

「食の愛の力」に 感謝せずにはいられない

いつも励ましのお便り、心より感謝して拝見させて頂いています。12のステップにあります、第1のステップ(私たちはアルコールに対し無力であり、思い通りに生きていけなくなっていたことを認めた)は確かに認める所であり、まさしくそこから私のステップだと思う次第です。私も無事故で(受刑生活を)乗り切って頑張っています。私自身、昨日や明日には生きられません。今日のためにしか生きられないと思います。ですから今日一日が大変貴重な価値のある意味深い一日と思いきっています。

また、最近よく食べ物について考える様になりました。食べ物は単に物質ではなく栄養を摂る事でもあります、生命をつなぎ生きるために人と人に思いをよせて食べる「食の愛の力」だと思います。生きる事は自覚した使命に従う事でもあり、(依存症から)回復していく上でも、とても大事な事でもあると思います。

ですから感謝して食べなければいけない、とつくづく感じます。それを忘れて食事をする事は本当に危険な事と思います。人と人に思いを寄せて食べる「食の愛の力」、この恵みに感謝せずにはいられない今日この頃です。私も、そちらに行く日がだんだんと近づいていますが、いつも謙虚な心で生きていく決意ですので、どうか今後とも色々な問題や悩みなどに対してのご助言、ご指導を宜しく願います。一日も早く皆様方と新しい人生の思い出を築いていきたいと思っています。

(神奈川県 O・H)

全てにおいて “ガマン”をしながらの生活

センターの皆様お変わりありませんか。こちら北国もだんだんと過ごしやすくなり、外で運動ができる季節となりました。私は元気に頑張っています。シュンさんの素晴らしい言葉に救われている私です。意志の弱い私ですが、立ち直る事ができるのか?薬物の精神的な欲求に勝つ事ができるのか?五里霧中です。そのような事を考えると、心が不安になる事があるので、今は細かい事は考えずに作業に専念して日々を過ごしております。

ところで手紙にあります「12ステップ」「神」の事が私にはぜんぜん分かりません。是非、詳しく教えてください。私には地元可愛い娘と孫たちがおります。今回の事は娘に正直に話をして受け入れてくれましたが、やはり不安でいっぱいです。こんな私でも娘たちに胸を張って逢う事が出来るのか等、心配事は数知れず多々あります。まず第一に社会復帰をしなければ、と全てにおいて“ガマン”をしながら生活をしております。結果、無事故1年になりました。このままこの工場から出所を目標にしております。

最後になりますが、センターの皆様にはくれぐれも体に十分気を付けて日々を頑張ってください。私も気を付け一日も早くセンターに行ける事を願っています。余談ですが、今年から「生活困窮者自立支援法」が施行されましたが、センター運営と関係があるのでしょうか?私も生活困窮者になるのでしょうか?教えてください。

(北海道 O・T)

しおさい俳壇

5月のお題

柏餅

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.17

センター長 栗原豊

「芸は身を助ける」という言葉がある。何かしら一芸にすぐれていると、困窮したときにそれが生計の助けになるという教えだが、まさしく私はそれを実感している。“一芸にすぐれる”かどうかは置くとして、私は受刑生活中に俳句の世界と出会い、俳句作りの面白さや魅力にはまった。そして幸運な事に、これによって依存症のマイナス人生がプラスに転じることができた。覚醒剤とアルコールで「どん底」に陥った私を直接に救ってくれたのは回復施設のダルクであり、日々新たな人生の指針を提示してくれているのは「魔法の杖」とも言える12ステップだが、物事や人間関係を謙虚に見つめるようになったのは俳句作りの恩恵によるものだと、我が人生を冷静に振り返って思う。俳句は私にとって経済的な意味での助けではなく、心の持ち方を支える栄養分のような役割を果たしている。俳句の経験と蓄積は、ともすると施設内での絶え間ないトラブルの日常に振り回されて、つい自分を見失い、心の奥に眠っている利己的

で独善的な体質をさらけ出してしまう場面がある。人知れずリーダーという存在は孤独なものだ。冷静だったはずの自分の感情がコントロールを失い、爆発させてしまった後などには独り深く落ち込むことだってある。

歌人の石川啄木は月末になると詩(短歌)ができたという。家族が生活苦にあえぐ生活の中で、啄木は月末にもらう給料の多くを借金返済に充てざるを得なかったからだ。いつも月末には自分がみじめになり、ダメさ加減を思い知らされ、否応なく内面を見つめさせられ、それが作品に結実したようだ。私の場合は生活困窮ではなく、どちらかというダルクフォーラムなどで各地を訪れた時の心象風景や施設運営で浮かぶ思い、人間関係などが作品に反映していると考えている。過去の受刑中に書いた手紙は囚われの身の立場から獄外の自由に憧れる作品が多かったように思う。今回は、それらを振り返る。(次号につづく)

柏餅

湯気の向ふに

母の顔

鬼

特選句

柏餅を蒸している景かも、子供にとって母が元気に台所で食事の支度などしているのは何よりの安心でもある、今は共働きなどで子を保育園にあずけたりするが、幼い頃は母と一緒に良いとも思う。湯気の中に母の笑顔が在るのが子にも幸せの一時、微笑ましく故郷の頃が懐かしい句です。

柏餅

食べては思ふ

幼き日

ヒロ

特選句

柏餅は1750年の江戸時代に普及したと言われ、粳の粉を練って中に餡を入れ柏の葉に包み蒸す。柏の木は古来から神が宿るとされ、また枯葉も新葉が出てから落ちるので子孫を繋ぐ縁起も込められ端午の節句に相応しいとされた。その柏餅を食べると父母や故郷や子の日が懐かしい、単純な詠ながら諸々の思いを込めた句です。

秀逸句

今月の秀逸句

アオ

初孫に今だ会えぬや柏餅

現代は子供の減少で学校の統廃合や子供の声を騒音などと言う時代になりましたが、難しい理屈は抜きにして自然の摂理に従い、祖父母、父母、子、孫と代々を繋ぐのが一番良い。老いて孫の顔を見れないのも哀しい。切実な句でもあります。

コバ

だめな俺母が励ます柏餅

句の作者の母はご存命なのか、或は亡くなられたのか、何れにしても何か事有る度に母が励ましてくれた、柏餅を食べるとその日の母を思い出す。自分の老いと共に懐かしく切々とした句。

クニオ

いつの日か母に褒められ柏餅

子供も大人も褒められることは嬉しい、まして母に褒められると元気も出る、褒められたのは子の日かそれとも今の希望かも。私も名の有る会社に就職した時は母が涙して喜んだものです。人生一度は父母を喜ばせたいもの、懐かしい句です。

ユタカ

アルバムのおい出覗く柏餅

アルバムほど思い出の詰まったものは他には無い、卒業写真などは老いて見ると実に懐かしい。今はビデオなどありますが一枚の写真があれば記憶の扉が開いて懐かしい、また俳句も一句あればその時の思いを込められます。

れいこ

柏餅あなたと食べたい頬よせて

柏餅は古来は端午の節句の祝いでもあったが、今では地方の土産に笹糰などと共に売られる、旅などで山河を見ながら恋人と子供に還って食べるのも楽しい。微笑ましい句です。「桜餅」の方が良いかも。

オノ

姑の手作り美味し柏餅

昔から姑と嫁は何かと仲が悪いこともあるが、お互いに認め合って仲の良い家庭もあるし、現代では別居が多いのでたまに姑の手作りの物を食べると味の付け方にも感心する。こうして睦まじ老若の家庭は子供達にも笑顔がある。微笑ましい句です。

シヨウイチ

囚われの我が身を歎く今朝の春

俳句で今朝の春は正月のことで本来は目出たい意であります、囚われの身では哀しい。人間は霊長類と言われその文明科学も素晴らしいが反面に罪悪もまた限り無く苦しみも多い。人間とは何かと思ひまた哀れの句でもあります。

アベ

早乙女の土手に車座柏餅

今では田植えも機械でするので滅多に早乙女も見れないが、私の里などでは観光の花田植えや高校生の田植えもあり昔を伝えている。又昔は田植え餅や柏餅も三時のおやつにした。懐かしい句で田植えを手伝ったことを思い出します。

佳作

コバ

妻や子の笑顔が浮ぶ柏餅

ヒロ

柏餅両手で食べる幼子よ

ミツ

麦飯に戴きますと合掌す

ユタカ

柏餅縮む背丈の柱疵

みく

暖かや柏餅なる季節かな

しま

もう一ついいと聞く子や柏餅

はな

食べたいな一つだけなら柏餅

たかこ

柏餅早く子供と食べたいな

いるか

柏餅菖蒲の花もこの頃ぞ

みのる

子供の日いつも食べるよ柏餅

ちーな

柏餅むかしも今も背比べ

すみれ

連休は柏餅食べ癒されて

シヨウイチ

我が心春雨の中闇の中

どっこい 私も生きてます ~我が回復記~

「エン回復記」

No.1

こんにちは。エンです。早いもので僕がこの施設に入ってから8年がたちます。これまでの施設生活を振り返ってみると、とても順調に回復してきたとは、とても言えません。挫折、挫折の連続でした。ここ2年ぐらいでやっと落ち着いてきた、という感じです。何十回とスリップを重ね、仲間には心配と迷惑を掛け続けて今があります。本当に仲間たちには、その分愛されて来たと感じます。潮騒で「エン」といえば、スリップの代名詞のような存在というイメージだったと思います。でも、仲間はいつも「また一から始めればいよ」と、スリップして施設に帰ってくる僕を受け入れてくれました。世間からすれば、なんて甘いんだと感じられるでしょうが、でも、その優しさがなければ、僕は一体どこへ行けば良かったのでしょうか。帰る場所がある、僕を必要としてくれる仲間がいる、僕はずっと愛されたかった、薬物にそれを求めていた、だが、それが見えなかっただけで、愛はすぐ隣りでずっと、ず〜と見守り続けていたんだと、気づくことができた今日この頃です。ありがとうございました。(エン)

5月のバースデイ

アキラ



断酒継続、頑張ります。

一休



がんばります。

シンヤ



二十歳過ぎてから、
時間が経つのが早い

長吉



年はとりたくない。

グッチ



ファイトー

りよふ



特になし(*^▽^*)

タカイチ



(^D^)

シュン



ハッピー

イケ



今日一日

カンタ



まあまあ

サダボウ



努力

イチ



仲間に感謝

5月の行事予定

- 4日 GW潮騒バーベキュー大会
- 5日 GW潮騒ポウリング大会
- 10日 秋元病院メッセージ
- 14日 潮騒俳句会
- 16日 秋元病院メッセージ
- 21日 潮騒映画会
- 24日 潮騒家族会
- 28日 筑波山ハイキング登山
- 31日 潮騒アディクションセミナー
特定非営利活動法人・潮騒 JTC 定期総会

6月の行事予定

- 1日 カスミ第23回「私の企画」応援します!
採択企画発表会
- 12日 潮騒俳句会
- 13日 第11回NPO法人北海道ダルクフォーラム
- 14日 秋元病院メッセージ
みのわマック感謝の集い
- 20日 秋元病院メッセージ
- 25日 潮騒映画会
- 29日 潮騒家族会

編集後記

人が生きていく上では、いろいろなことがあります。感動や喜びだけでなく怒りや悲しみ、不安、後悔、小さな絶望に振り回されることもあります。私たちの日常は結構起伏に富んでおり、いろいろな出来事が起こります。その度に感情は揺れ動き、面白くない事や嫌な事、面倒な事などはできるだけ避けて通りたいのが人情です。強がってみたり、自分をよく見せようと誇張したりもします。なるべく他人に弱みを見せたくないのも素直な心情でしょう。でも、人間は弱いものです。12ステップの教えは、こうした身過ぎ世過ぎの瑣末なトラブルに振り回される日常を、「そんなことは生きる上で大したことではないんだよ」と俯瞰できる心の余裕をもたらしてくれます。その結果、できるだけ穏やかな毎日を送ることができ、心の平安も保てます。予期しない事態によって心が掻き乱された時には、依存症者でなくても12ステップの恩恵に素直に感謝します。さだまさしの名曲、風に立つライオンの歌詞に「僕は生きることに思い上がりたくないのです」という一節があります。アフリカの偉大な自然の前では医療は否応なく無力を告知されます。そのことに謙虚に向き合いながらも、回復を信じて医療に従事する医師の、謙虚な生き様を描いた名作です。これこそ12ステップの教えに通じるものだと僕は考えています。(市)

献金・献品を頂いた方 (5月15日現在)

- ・ 銚田市 内海様
- ・ 葛飾区 中村様

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

今月も献金・献品をいただきました。
心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒 JTC は、
回復のためのプログラムを実践することが
できておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しく願い申し上げます。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年5月号**Contents**

- P② 世間はマーシー(田代まさし)を誤解している
- P③ 達成感を得た2泊3日の和太鼓合宿練習
- P④ 就労支援潮騒農業今年も本格始動
- P⑥ バーベキュー大会
- P⑧ 潮騒ポウリング大会
- P⑨ 10周年フォーラムのテーマ「更なる10年に向けて」に決定
おらげのかまどに人気メニューの「ぶた井」登場!
「ウクレレミーティング」に癒される
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇5月「柏餅」
- P⑭ どっこい私も生きてます「エン回復記」

■ 編集・発行 :

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス銚田
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



